

コ ン テ ン ツ	PMS講習会 受講生募集中 PMS資格試験・・・563名が受験 P2Mエグゼクティブ・フォーラム 実施 P2M早稲田大学オープン講座 実施 第1回 P2Mクラブ中国地区部会 実施 P2M・地方普及講演会・セミナーを開催 広島・福岡でP2M入門研修会を開催 ロンドンで日英PM交流会議 実施	vol.8 <hr/> 2004.4	<h1>PMCCニューズレター</h1>
			 特定非営利活動法人 プロジェクトマネジメント資格認定センター

## PMCC 平成16年度 運営方針



PMCC 石倉事務局

昨今、本屋にプロジェクトマネジメント（PM）の本がズラリと並ぶようになりました。PMが今如何にこのように認知され、世間の注目を浴びるようになったのでしょうか？今やPMがいわゆる企業や事業の実施策の手法とし

て有効があるとの認識が深まったからに他ならないと思います。

PMが我が国に導入され、エンジニアリングや建設業で40数年前から取り入れられましたが、小原教授によれば、これがいわゆる第一世代のPMです。

約10年前からはモダンプロジェクトマネジメントが、情報系プロジェクトや新商品開発やサービス開発にも取り入れられるようになり、急激にPM人口が増加しました。これが第2世代のPMとされています。

さらにP2M標準ガイドブックが2年半前に世界に発信され、PMが価値創造、戦略実践、社会公益イニシアティブ、複雑・複合プロジェクトに適用出来る事となりました。これが第3世代のPMと呼ばれています。

このようなPMの発展には、その背景として事業のグローバル化、スピードと不確実性の重視、PM人材の重要性などへの認識の深まりが挙げられます。

平成16年度はPMCCにとって3年目を迎えることとなりますが、この3月のPMSレベル試験でもって総計1千名を越えるP2M有資格者を世間に送り出すこととなります。

また、年中頃からはPMRレベルの資格試験が始まることとなりますが、PMCCとしましては、このためには準備万端整えて参る所存であります。

さらに、デファクト化に向けた取組みもより一層の強化を図ってまいります。次表が新年度の主な取組みです。

平成16年度 主な取組み計画

1. PMR資格認定試験の実施
2. 業界別ベストプラクティス（実践事例）集の発行
3. PMS資格取得者のステイタスアップへの取組み
4. デファクト化に向け会員企業の拡大
5. 人材育成プログラム高度化事業
6. P2Mガイドブック英語版の発行（海外）
7. 国際標準向けアジア市場開発戦略の立案（海外）

## PMS講習会 受講生募集中

平成16年度 第1回PMS講習会が、5月14日（金）～7月31日（土）の全8日間実施されます。今回は東京会場・名古屋会場・大阪会場の全国3会場で開催されます。

講習会会場

- ・東京会場
  - クラス1 明治大学アカデミーコモン（千代田区）
  - クラス2,3 国際ファッションセンタービル（墨田区）
- ・名古屋会場
  - クラス4 中産連ビル（東区）
- ・大阪会場
  - クラス5 アーバネックス備後町ビル（中央区）

本講習会は、PMS資格取得の早道として、既に1000名以上の方が受講され、PM実務経験者による講師陣の講義は好評を得ています。また、厚生労働省教育訓練給付制度指定講座認定ですので、雇用保険加入期間等の条件を満足し、本講習を終了認定された方は申請によりハローワークから受講費用の一定額が給付されます。なお、クラス別スケジュールの詳細は、PMCC事務局までお問い合わせください。また募集ポスターを作成いたしましたので、会員企業におかれましては、社内に掲示し積極的な受講生応募のご推奨をお願いいたします。



## Topics

### PMS資格試験・・・563名が受験

3月28日(日)、平成15年度第2回PMS資格試験が実施されました。今回は、東京会場(工学院大学新宿校)、京都会場(PHP研究所京都本部)、札幌会場(NSS・ニューステージ札幌)、広島会場(広島国際会議場)、名古屋会場(中産連ビル)の全国5会場で実施されました。受験者は全国で563名。多数の合格者が期待されます。

合格発表は4月28日(水)を予定。本人通知及びPMCCホームページで発表されます。

### P2Mエグゼクティブ・フォーラムを実施

2月26日(木)に、高輪プリンスホテルで業界リーディングカンパニーの経営幹部を対象とした「P2Mエグゼクティブ・フォーラム」を開催しました。

参加企業は21社28名に及び、経済産業省にも来賓としてご出席いただき、合計37名が出席しました。

フォーラムは、PMCC吉川会長の「P2Mと人材開発の重要性」の講演の後、経済産業省 中嶋製造産業局次長のご挨拶。小原教授による「P2Mの意義に



ついて」、石倉事務局長の「P2M普及推移ご報告とご賛同の御礼」と続き、会食の後、参加企業7社様より各社の取組みやP2Mに対する期待・提言等をお話いただきました。最後に、経済産業省 村崎国際プラント推進室長より閉会の挨拶をいただき、有意義なフォーラムとなりました。

今後も、デファクト化に向けた取組みを積極的に推進してまいりますので、ご支援ご協力をお願いいたします。

### P2Mパートナー企業様「P2M懇談会」実施

1月22日(木) P2Mにお取組みをいただいている有力パートナー企業の実務担当者にご出席をいただき、初めての「P2M懇談会」を実施しました。出席者は12企業12名で、出席企業から自社の取組み状況の報告と意見交換

を行いました。

さらに、様々な視点からのご提言もいただき、事務局としても貴重なご意

見を今後の活動指針の参考とさせていただきます。



### P2M早稲田大学オープン講座 実施

事業創出・提案型ビジネスのエキスパート養成を目的とした、「P2M早稲田大学オープン講座」を3月6日、13日、27日の3日間 早稲田大学アジア太平洋研究センターとPMCC共催で実施しました。

当講座は昨年の夏に続き2回目で「P2Mの意義」「P2M深耕」「P2M適用の事例研究」の価値創造型人材育成に向けた9講座で構成され、30名の方々が熱心に受講され好評でした。



### 第1回 P2Mクラブ中国地区部会を実施

3月5日(金) RCC文化センターでP2Mクラブ中国地区部会が実施されました。

中国地区P2Mクラブ会員の他40名が出席し、今後の進め方等についての意見交換・提案を頂きました。また、松下電器PSS社上原賢明氏より、人材開発センターの取組みと研修において実施したP2Mならびにバランススコアカードの適用事例を報告いただきました。

また、PMCCより世話人として委嘱のあった藤井氏より2ヶ月に1回程度の例会の開催提案がされ、了承されました。次回は、5月28日(金)を開催の予定です。翌日の中国新聞にも部会の記事が掲載されました。



## P2M・普及講演会・セミナーを開催

4月に「地域経済とP2M」をテーマとしたP2M普及講演会やセミナーを3地域で開催します。

プログラムは、P2M研究所長 小原重信氏の「地域経済とP2M」を中心とした地域経済に根ざしたセミナー内容です。関係者をお誘いの上、積極的な参加をお願いいたします。

- ・大阪セミナー 4月10日(土) 13:00~17:30  
(会場) 新大阪和幸ビル9F
  - ・三重県特別講演会 4月16日(金) 13:30~17:00  
(会場) アスト津 研修室
  - ・九州セミナー 4月24日(土) 13:00~18:00  
(会場) 福岡商工会議所
- 詳しくは、PMCCホームページをご覧ください。

## P2M入門研修会を開催

広島と福岡でP2M入門研修会を開催します。テーマは「新規事業・プロジェクト成功の秘訣を学ぶ」で2日間コースです。積極的な参加をお願いします。

- ・中国地区・P2M入門研修会  
5月28日(金)~29日(土) 広島RCC文化センター
- ・九州地区・P2M入門研修会  
7月2日(金)~3日(土) 福岡商工会議所(予定)  
<内容>  
1日目「P2M概論・プログラムマネジメント」  
2日目「個別マネジメント・P2M事例紹介」

## 企業・団体向け P2M研修会 活発化

企業・団体向けP2M特別研修会が大きな広がりを見せています。団体向けには「独立行政法人国際協力機構(JICA)」、「(財)日本国際協力システム(JICS)」でのP2M研修会。企業向けには2月に「(株)CSK」でP2M研修、「松下電器産業(株)海外部門」の企業研修。3月には、「NECユニバーシティ(株)」、「日本電気(株)」の企業研修を実施。4月には「旭ガラス・マシナリー(株)」の企業研修を実施します。(敬称略)

## ロンドンで日英PM交流会議を実施

P2Mの世界標準に向けた取組みの一環として、3月22日~4日 ロンドンで「日英PM交流会議」を実施しました。PMCCからは小原教授を中心に4名が参加。ロンドン大学と英国PM協会APMで交流講演会を開催しました。

交流会では「P2Mは伝統的思考を打破して時代に適合した展望のもとに策定されており、APMBoKの改定に参考となる指針となっている。」また「PMに対する方向性では一致しているので、相互の定期的交流は極めて有益である」等の意見が出され、APM幹部から定期交流の具体化が進言されました。

交流会の後、ロンドンのクランフィールド大学を訪問し、MBAコースのPM主任、Ralph Levene教授と授業内容の解説とP2Mに対する意見交換も行いました。

### 会員企業紹介シリーズ

#### 富士電機システムズ(株)様 社内の各事業部門にP2Mが浸透

昨年、80周年の節目を迎えた富士電機が完全持株会社化を行った。富士電機システムズ(株)は富士電機ホールディングズ(株)傘下の4事業会社の一つで、各種設備システム及びそれらに纏わるサービスの提供を生業としている。

P2Mについては、富士電機の時代から全社的取組みを行っている。同社はこれまで電力分野・社会システム分

野・産業分野を中心としてプロジェクトの実績を積み重ねてきたが、昨今のITをベースとした技術革新のスピード化、PFI・ESCOといった新しいビジネス形態への移行といった事業環境の変化の中で、従来型のPMではうまく行かないという認識が高まってきていた。そのような折に期せずして発行されたP2Mおよび資格制度(PMS)を積極的に取り入れることとしたものである。

早速、社内教育制度に組み入れ、技術開発・営業企画・能力開発部門のト

ロイカ体制で社内展開を行った結果、過去3回の試験で以下の実績を残した。富士電機グループ：54名(内、富士電機システムズ：44名)

合格者数もさることながら、社内の各事業部門・営業部門・工場・スタッフ部門に広く浸透したことで、一応の成果を達成したと判断している。今後は更に各部門内での普及率向上の展開を期している。

実務上の成果も各部門で現れている。一例としてPFI事業への参加を果たしたことを挙げておきたい。

PMCC広場

～ PMS資格試験合格者の一言～

私は、国際宇宙ステーションに係わる仕事に携わっています。その中で、NASAがアードバリューマネジメントをはじめとして、プロジェクトマネジメントを積極的に行っていることを知りました。そんな折、上司よりP2M講習が開催されるとの話を聞き、ぜひ自分も挑戦してみたいと考えました。

週2日、計8日間の講習で、P2Mの幅広い内容を理解するのは大変でしたが、各講師の先生に教えていただいたPMの成功事例を思い浮かべ、P2M標準ガイドブックを何度も読み返すことで、理解を深めることができました。また、自分自身の業務と照らし合わせることで、よりP2Mを身近に感じることができました。

P2Mを学んで感じたことは、「プロジェクト」や「プログラム」と名のついたものでなくても、一人一人の作業をプロジェクトやプログラムと置き換えてP2Mを実践することにより、仕事の効率化や効果向上が期待されるというものです。プロジェクトマネジャーでなくとも、あらゆる仕事に携わる人にP2Mの知識体系を活かせると思います。

宇宙ステーションは、数十年にも亘る壮大な国際プログラムですが、これは、各参加国の国内プログラム・プロジェクト、さらにはそれらを細分化した個々のプロジェクトの結びつきとも言えます。最終的には、宇宙ステーション業務に携わる各個人の作業へと分割されていきますが、その各作業がPMにより、効果的・効率的に実施され、また、それらがプロジェクトマネジメントによりうまく結びつけられることが宇宙ステーションの成功の鍵となると思っています。

有人宇宙システム(株) 岡田 久仁子 様

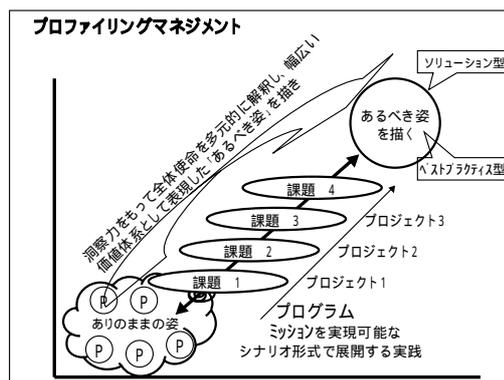
PMの歴史とその推移を6回連載し、前回からプログラムマ

P2Mの活用とその事例

ネジメントの中で最も核心的な部分であるプログラム統合マネジメントの解説に入りました。今回から、新しいPMであるP2Mの説明とその用途について話を進めます。

今回はプログラム統合マネジメントに関連する3つのプロジェクトモデルとしてのスキームモデル、システムモデル、サービスモデルの説明をしました。今回からプログラム統合マネジメントの説明に入りますが、統合マネジメントは6つの要素 プロファイリングマネジメント 戦略マネジメント アーキテクチャマネジメント 価値評価マネジメント プラットフォームマネジメント プログラムライフサイクルマネジメントで構成されるところまで説明しました。そこで今回から6つのマネジメントを順次説明します。

プログラム統合マネジメントの最初はプロファイリングマネジ



メントです。「曖昧で、複雑なプログラム」を関係者に可視化するためのマネジメントがプロファイリングマネジメントです。

現実のありのままの姿を描く、 将来のあるべき姿を描く、  
現実のあるべき姿から将来のあるべき姿に到達するには越えるべき幾多の課題が存在する、 プロジェクトの構築: その課題をそれぞれ1,2,3,4とし、課題そのものをプロジェクト1,2,3,4と見なす、 一つのプログラムに複数のプロジェクトが存在することを理解する、 このプロジェクト群の価値を高める方向で有機的に構造化する、 「ありのままの姿」から「あるべき姿」に到達する道筋を想定し、シナリオを書く。ここまでがプロファイリングマネジメントです。 (芝 安曇)

<p>PMCC News Letter vol.8 2004年4月発行</p>	<p>編集・発行 / 特定非営利活動法人 プロジェクトマネジメント資格認定センター 〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目4番6号 TEL:03-3502-4405(代表) FAX:03-3539-1741 (分室) 〒105-0004 東京都港区新橋2丁目6番1号 TEL:03-3539-3022(代表) FAX:03-3539-3023 さくら新橋ビル8階</p>
---	---